児童・生徒が学びを「自分事」と捉える国語科の授業開発

キーワード［自分事(ownership)，主体性，授業研究，教育評価］　　講師　菊田　尚人

令和4年8月29日　山形新聞

地域と学ぶ 84

山形大学地域教育文化学部

自分ごとと感じるために

国語科教育　菊田尚人講師

近年、教育現場では学習者が主体的な学びに取り組むことの重要性が指摘されています。学習者の主体性を考える上で、学習者が学びそのものを自分ごととして捉えているかどうかを意識することが大切です。皆さんも、自分には全く関係ないと感じられる作業を単にやらされるだけだと、苦痛に感じるのではありませんか。自分ごとという言葉は、主体的な学びを実現するためのキーワードの一つだといえます。

私は、国語の時間の学びを学習者が自分ごととして認識できるようにするための効果的な指導方法について研究しています。研究を進めるにあたっては、山形県内の研究協力校の先生方と一緒に実験的な授業を計画し、現場で実践していただいています。研究授業の構想段階で、さまざまな経験をお持ちの先生方からアイデアをいただけることは、研究を進める上での刺激となっています。また、得られたデータの分析をする際に、現場の先生方だからこそ感じられる気づきや発見を教えていただけることも、大変ありがたいです。

現場での研究を通して、学習者が国語の学びを自分ごととして意味付けようとする行為の様相は、同じ授業を受けた学習者であってもそれぞれ異なっていることが分かってきました。ある学習者は授業の内容が自分の将来とどのように関連しているかを意識することで、国語で学んだことを自分のものとして実感していました。一方で、授業で取り組んだ活動の中に自分自身で何かを決める機会があったことを想起することで、その活動が自分のものになっていたと実感できた学習者もいました。

今後は、こうした自分ごととしての学びの多様性を踏まえた効果的な指導方法の検証を進めるとともに、得られた知見を山形県内の国語の教室へ還元していきたいと考えています。

＝月1回掲載します

▽1990年生まれ、福島県出身。山形大着任は2021年

研究協力校における授業研究の様子＝2021年10月、米沢市

内容：

児童・生徒が国語科での学びを「自分事」と感じられるような授業づくりの方法について研究しています。また，そうした授業を通して，児童・生徒の学びがどのように深まるのかについても研究しています。

研究では，研究協力者である現場の先生方と単元構想の段階から打ち合わせを行い，「自分事の学び(ownership of learning)」という観点から挑戦的な授業の開発を行っています。教室において，児童・生徒の学びの姿に迫るための多様なデータを丁寧に収集し，児童・生徒の主体的な学びにつながる実践的な知見の創出に取り組んでいます。

アピールポイント：

教育委員会が主催する勉強会や校内研究会等において，国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究成果の発信を積極的に行っています。

国語科教育の課題に対して，現場の先生方と共同して研究に取り組んだ経験も豊富です。児童・生徒にとって魅力ある国語科の授業づくりに関して，何かお手伝いできることがございましたら，お気軽にお問い合わせください。

分　野：教科教育学，初等中等教育学
専　門：国語科教育
研究室：地域教育文化学部2号館5階550号室
オフィスアワー：水曜日 昼休み(12:10～13:00)

E-mail：n-kikuta@e.yamagata-u.ac.jp
Tel　：023-628-4359
HP　：https://yudb.kj.yamagata-u.ac.jp/html/200000883_ja.html